

和歌山県の地震

第 2 7 卷 4 号
平成 3 1 年 4 月

和歌山県の地震活動

震央分布図	・ ・ ・ ・ ・ 1
断面図	・ ・ ・ ・ ・ 2
概況	・ ・ ・ ・ ・ 2
和歌山県で震度 1 以上を観測した地震及び震度一覧	・ ・ ・ ・ ・ 3
震度分布図	・ ・ ・ ・ ・ 4

地震メモ No. 305

南海トラフ地震に関連する情報の名称について	・ ・ ・ ・ ・ 7
-----------------------	-------------

- * この資料に使われている震源要素（北緯・東経）は、世界測地系に基づいています。
- * この資料の地震の震源要素は暫定値を使用しています。震度データを含めて再調査した後、修正することがあります。
- * 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- * この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図 25000（行政界・海岸線）を使用しています。

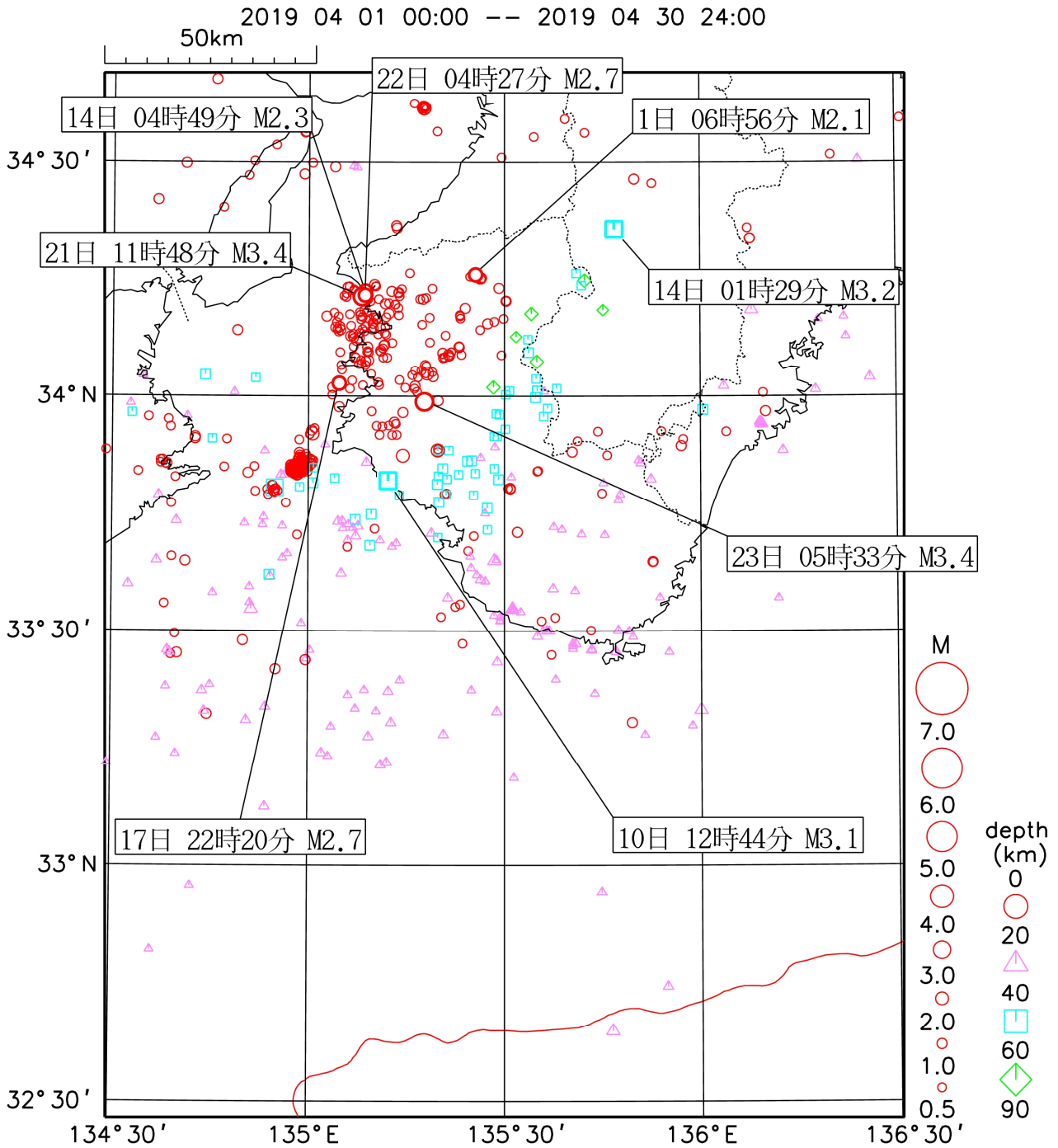
和歌山地方気象台

和歌山県の地震活動

2019年4月

和歌山地方気象台

震央分布図

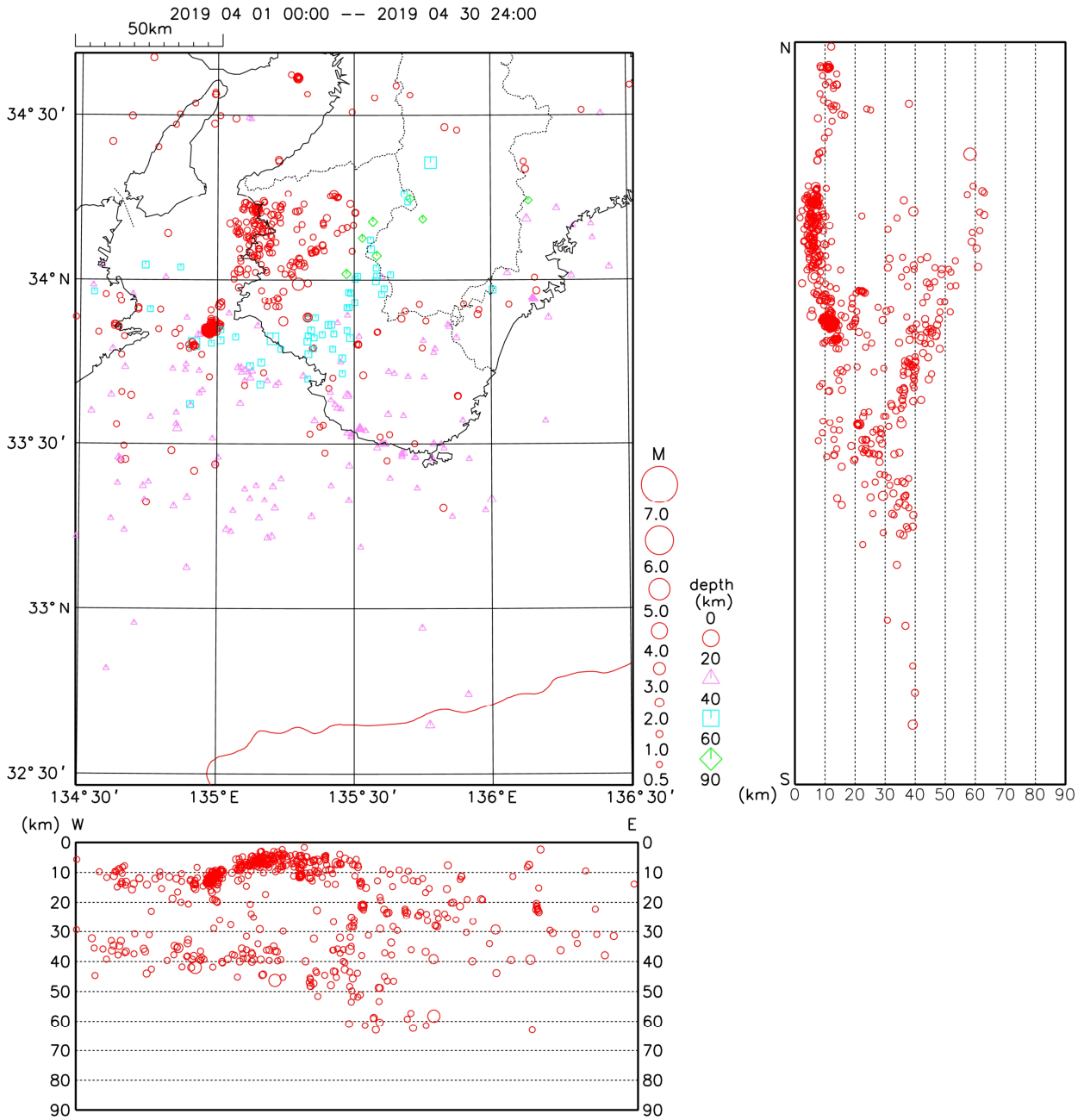


震央分布図は地震が発生した場所を地図上に描画したものです。

シンボルマークの大きさで地震の規模（マグニチュード）を、シンボルマークの形と色で震源の深さを表しています。また、赤線は海溝軸（南海トラフ）の位置です。

図中の吹き出しは、和歌山県内で震度1以上を観測した地震および震央分布図内で最も規模の大きな地震を示しています。

断面図



概況

4月の震央分布図内で震源決定した地震のうち、マグニチュード(M)2.0以上の地震は26回(前月は32回)でした。そのうち最も規模の大きかった地震は、21日11時48分紀伊水道の地震(M3.4、深さ7km)、23日05時33分和歌山県北部の地震(M3.4、深さ6km)でした。これらの地震は地殻内で発生したもので、県内では一部の市町で震度2~1を観測しました。

4月に和歌山県内で震度1以上を観測した地震は、上記の地震を含めて8回(前月7回)でした。

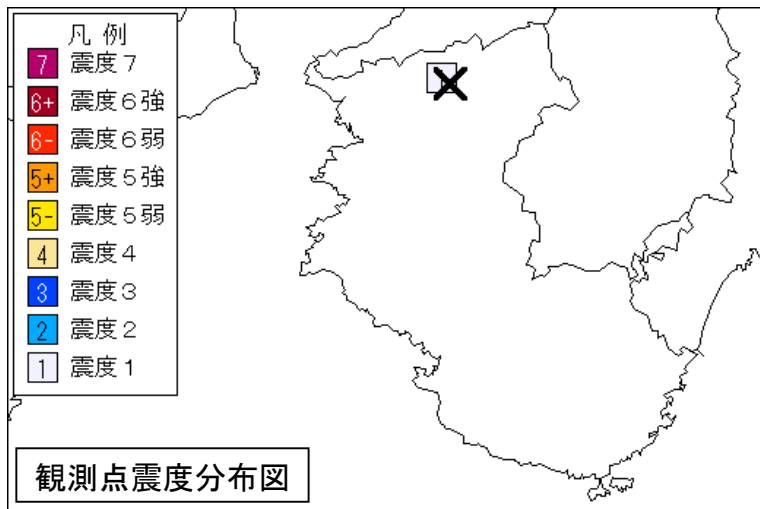
和歌山県で震度1以上を観測した地震及び震度一覧

発震時（年月日時分） 各地の震度（和歌山県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2019年04月01日06時56分 和歌山県 震度 1：紀の川市粉河	和歌山県北部	34° 15.5' N	135° 25.5' E	7km	M2.1
2019年04月10日12時44分 和歌山県 震度 1：田辺市中辺路町栗栖川*	和歌山県北部	33° 49.2' N	135° 12.2' E	46km	M3.1
2019年04月14日01時29分 和歌山県 震度 1：新宮市新宮	奈良県	34° 21.4' N	135° 46.8' E	58km	M3.2
2019年04月14日04時49分 和歌山県 震度 1：和歌山市一番丁*	紀伊水道	34° 13.4' N	135° 08.6' E	8km	M2.3
2019年04月17日22時20分 和歌山県 震度 1：湯浅町青木*, 由良町里*	紀伊水道	34° 01.6' N	135° 04.6' E	9km	M2.7
2019年04月21日11時48分 和歌山県 震度 2：和歌山市一番丁*, 海南市下津*, 有田市初島町*, 湯浅町青木* 震度 1：和歌山市男野芝丁, 有田市箕島, 和歌山広川町広*, 和歌山日高町高家*, 由良町里*, 日高川町土生*, 紀美野町下佐々*, 有田川町下津野*	紀伊水道	34° 12.7' N	135° 08.1' E	7km	M3.4
2019年04月22日04時27分 和歌山県 震度 1：和歌山市一番丁*	紀伊水道	34° 12.9' N	135° 08.6' E	7km	M2.7
2019年04月23日05時33分 和歌山県 震度 2：湯浅町青木*, 日高川町高津尾* 震度 1：和歌山広川町広*, 日高川町土生*, 日高川町川原河*, 有田川町清水*, 有田川町下津野*, 有田川町中井原*	和歌山県北部	33° 59.2' N	135° 17.7' E	6km	M3.4

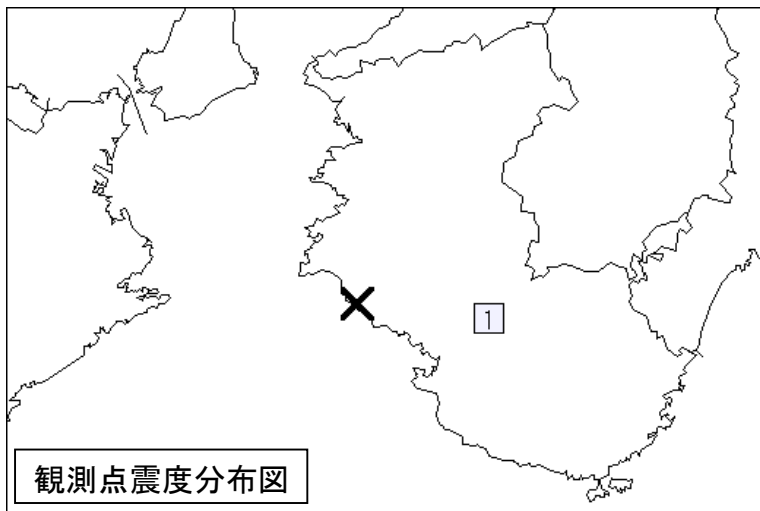
地点名の最後に*のついている地点は、和歌山県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

震度分布図（図中の×は震央）

2019年04月01日06時56分 和歌山県北部の地震(M2.1、深さ7km)



2019年04月10日12時44分 和歌山県北部の地震(M3.1、深さ46km)

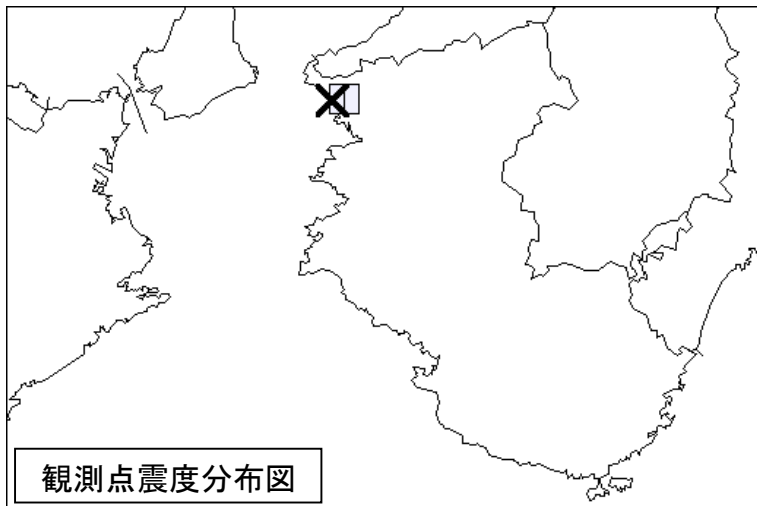


2019年04月14日01時29分 奈良県の地震(M3.2、深さ58km)

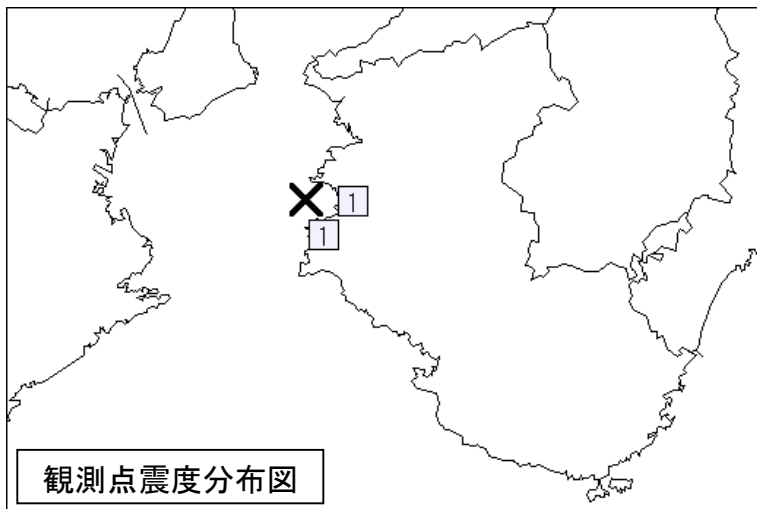


震度分布図（図中の×は震央）

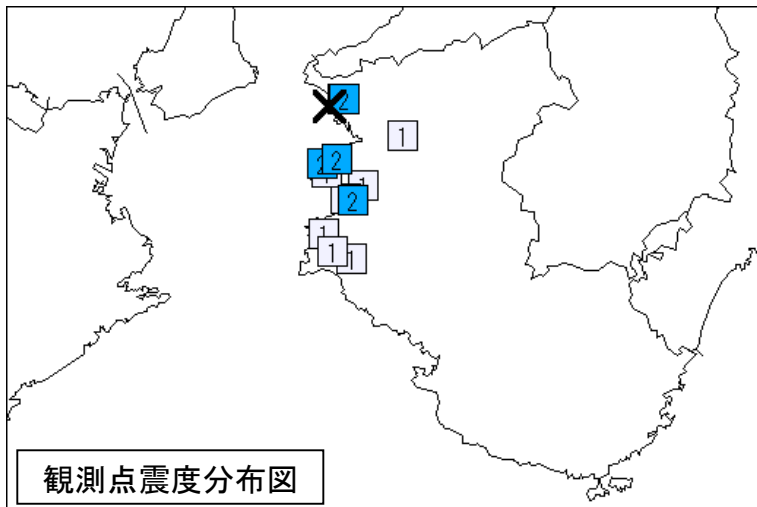
2019年04月14日04時49分 紀伊水道の地震(M2.3、深さ8km)



2019年04月17日22時20分 紀伊水道の地震(M2.7、深さ9km)

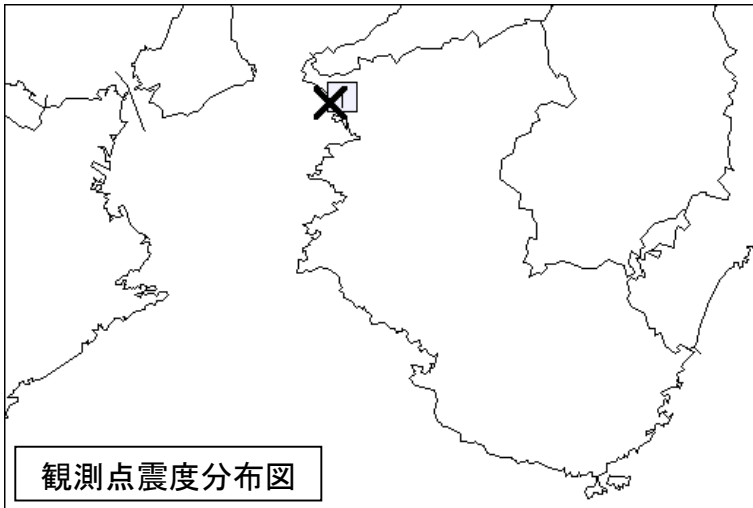


2019年04月21日11時48分 紀伊水道の地震(M3.4、深さ7km)

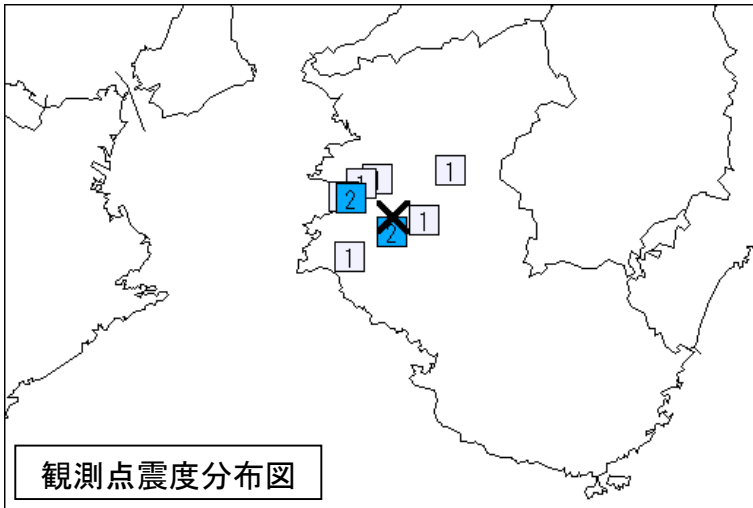


震度分布図（図中の×は震央）

2019年04月22日04時27分 紀伊水道の地震(M2.7、深さ7km)



2019年04月23日05時33分 和歌山県北部の地震(M3.4、深さ6km)



南海トラフ地震に関連する情報の名称について

昨年12月の中央防災会議防災対策実行会議「南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応検討ワーキンググループ」報告書を踏まえて、南海トラフ沿いで発生した異常な現象の観測結果や分析結果について発表する情報の名称を、気象庁は3月29日に以下の通り決定しました。

- ◆ 情報の名称を「南海トラフ地震臨時情報」及び「南海トラフ地震関連解説情報」とします(表1)。
- ◆ 「南海トラフ地震臨時情報」には、情報の受け手が防災対応をイメージし、適切に実施できるよう、防災対応等を示すキーワードを情報名に付記します(表2)。
- ◆ 「南海トラフ地震関連解説情報」では、「南海トラフ地震臨時情報」発表後の地震活動や地殻変動の状況等を発表します。また、「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における評価結果もこの情報で発表します。

異常な現象が観測された時の情報発表の流れは図のとおりです。また、具体的な運用開始時期や発表方法については、決まり次第お知らせします。

表1 南海トラフ地震に関連する情報の名称及び発表条件

情報名	情報発表条件
南海トラフ地震臨時情報	○南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 ○観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
南海トラフ地震関連解説情報	○観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況等を発表する場合 ○「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合(ただし臨時情報を発表する場合を除く)

表2 「南海トラフ地震臨時情報」に付記するキーワード

南海トラフ地震臨時情報 (調査中)	観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震警戒)	「南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応検討ワーキンググループ」において示された「半割れケース」に相当する現象と評価した場合
南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震注意)	「南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応検討ワーキンググループ」において示された「一部割れケース」/「ゆっくりすべりケース」に相当する現象と評価した場合
南海トラフ地震臨時情報 (調査終了)	(巨大地震警戒)、(巨大地震注意)のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

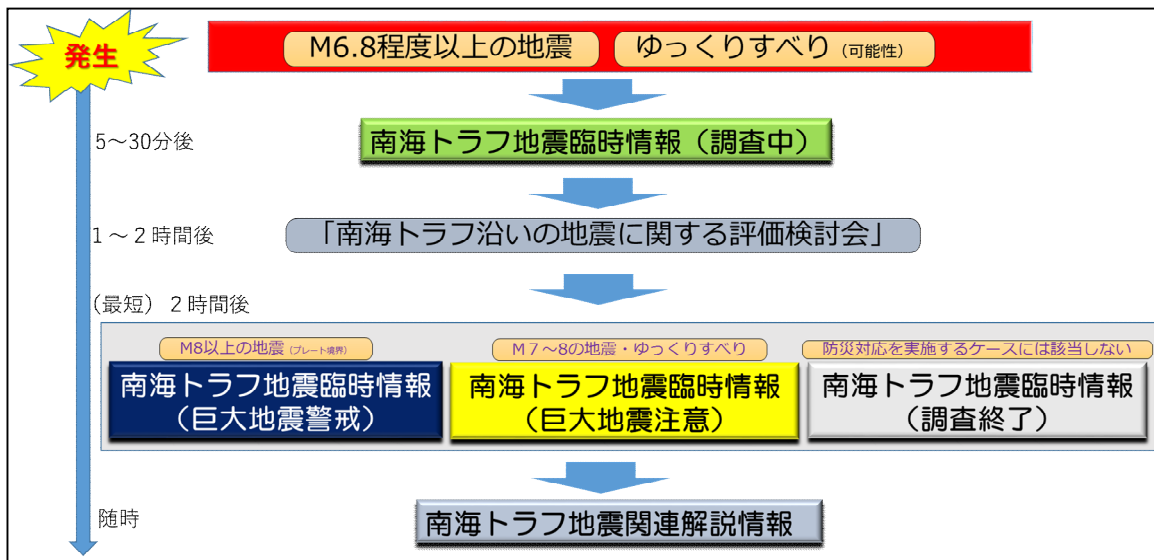


図 南海トラフ沿いで異常な現象が観測された時の情報発表等の流れ (概略)